

2023年12月27日

各位

会社名 株式会社 y u t o r i  
代表者名 代表取締役社長 片石 貴展  
(コード番号: 5892 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役副社長 瀬之口 和磨  
(TEL) 03-6379-0667

### 東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は本日、2023年12月27日に東京証券取引所グロース市場に上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、2024年3月期（2023年4月1日から2024年3月31日）における当社の業績予想は、次のとおりであり、また、最新の決算情報等については別添のとおりであります。

#### 【個別】

(単位: 百万円、%)

項目	2024年3月期 (予想)			2024年3月期 第2四半期累計期間 (実績)		2023年3月期 (実績)	
	対売上 高比率	対前期 増減率		対売上 高比率		対売上 高比率	
売上高	3,565	100.0	44.4	1,751	100.0	2,470	100.0
営業利益 又は営業損失(△)	337	9.5	—	113	6.5	△47	—
経常利益 又は経常損失(△)	312	8.8	—	106	6.1	△54	—
当期(四半期)純利益 又は当期純損失(△)	215	6.0	—	53	3.0	△68	—
1株当たり当期 (四半期)純利益 又は当期純損失(△)	143円15銭			35円94銭		△46円22銭	
1株当たり配当金	0.00			0.00		0.00	

- (注) 1. 当社は連結財務諸表及び四半期連結財務諸表を作成しておりません。
2. 2023年3月期(実績)及び2024年3月期第2四半期累計期間(実績)の1株当たり当期(四半期)純利益は期中平均株式数により算出しております。2024年3月期(予想)の1株当たり当期純利益は公募予定株式数(85,000株)を含めた予定期中平均株式数により算出しております。
3. 2023年9月1日付で、普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。上記では、2023年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期(四半期)純利益又は1株当たり当期純損失(△)を算出しております。

## 【2024年3月期業績予想の前提条件】

### 1. 当社の見通し

当社は、「TURN STRANGER TO STRONGER (ハグレモノをツワモノに)」をミッションに掲げており、「ファッションブランドを纏うことで、未知の才能をもつ世界中のハグレモノが、そのズレを強さに反転させられるように」という願いをもとに、複数のブランドの創造を図ることでミッションの実現に取り組んでおります。

2018年の創業以来、複数のストリートファッションブランドの立ち上げ、運営を行ってまいりました。創業以来ブランド数は毎期増加し、2023年8月末現在の自社ブランド数は22となっております。当社は、自社ECサイトである「YZ Store」の他、株式会社ZOZOの運営する「Zozotown」、オフライン等での販売も行っており、SNSを通じた顧客認知を獲得し、新規ブランド開発による顧客層の拡大を図っております。

このような状況のもと、当社の2024年3月期第2四半期累計期間の業績は、売上高1,751百万円、営業利益113百万円、経常利益106百万円、四半期純利益53百万円となりました。コート・アウター等の重衣料が販売の中心となる第3四半期以降において、商品単価が上昇することから、売上高が好調に推移する見込みであります。以上を踏まえ、2024年3月期の業績予想は、売上高3,565百万円(前期比44.4%増)、営業利益337百万円(前期は47百万円の営業損失)、経常利益312百万円(前期は54百万円の経常損失)、当期純利益215百万円(前期は68百万円の当期純損失)となる見込みであります。

### 2. 業績予想の前提条件

2024年3月期の予想数値につきましては、2023年7月までの実績と、2023年8月以降の予想値に基づき、2023年8月に策定(期初予算を修正)のうえ、2023年8月31日の取締役会での決議を経たものであり、8月以降の月次見通しと本開示時点までの実績に大きな差異は生じておりません。なお、業績予想の具体的な策定方法は以下の通りです。

なお、当社の事業は、衣料品及び雑貨等の企画及び販売に係る事業(以下「アパレル事業」)の単一セグメントであるため、セグメント別の記載をしておりません。

#### (売上高)

当社の展開するアパレル事業は、10~20代を対象としたストリートファッションブランドを発端として、その後はストリートブランドに限らないファッションカテゴリにおいて、アパレル商材の企画及び販売により規模を拡大してまいりました。

当事業の売上高予算は、①直販、②PF売上(他社ECプラットフォーム)、③オフライン、④卸売、⑤その他の区分毎に策定しております。

#### ① 直販

自社ECサイト「YZ Store」を通じて「9090」「Younger Song」「My Sugar Babe」「HTH」等を消費者向けに販売するチャンネルであります。

ブランド毎に、計画策定時点の直近までの自社ECサイトのセッション数(注1)と注文数の実績からCVR(注2)を算出した上で、計画期間における想定セッション数に対して過去実績を勘案したCVRを乗じることで注文数を算出しております。その上で、過去の販売実績に基づく注文単価(注3)を算出し、計画期間における想定注文数に注文単価を乗じることで売上高を算出しております。

なお、売上高の認識は出荷基準によっておりますが、注文から出荷までのリードタイムは1日程度と短期間であるため、計画上は注文高を売上高と見做しております。

2024年3月期は、「9090」(2018年8月販売開始)、「Younger Song」(2022年10月販売開始)、「HTH」(2022年10月販売開始)を中心として平均注文単価の上昇を見込んでおります。

#### ② PF売上

他社のECプラットフォーム経由で消費者向けに販売するチャンネルであり、現時点では、株式会社ZOZOの運営する「Zozotown」にて「nemne」「Broken Base」等の販売を行っております。

2024年3月期は、主に2022年9月に販売を開始した「Broken Base」のセッション数、平均注文単価の上昇を見込んでおります。

#### ③ オフライン

実店舗、移動販売、POPUP(常設ではなく、一時的に場所を借りて行う販売手法)で消費者に直接販売するチャンネルであり、計画期間における実店舗の出店計画に対して、既存店舗における売上実績を基に算出しております。移動販売・POPUPについては、想定開催数に対して、過去実績に基づく開催1回あたりの売上高を乗じることで算出しております。

実店舗の出店数について、2024年3月期末14店(2023年3月期末8店)を見込んでおります。

④ 卸売

他の小売業者に対して卸売販売を行うチャネルであり、過去実績に基づく販売点数及び販売単価を基準として算出しております。

⑤ その他

上記①～④に含まれない広告協賛売上等が含まれ、計画策定時点の取引を基に算出しております。

以上の結果、2024年3月期の売上高は3,565百万円（前年同期比44.4%増）を見込んでおります。

（注1）セッション数

ユーザーがWebサイトにアクセスした回数のことを表す指標であります。自社ECサイトや他社ECサイトなどオンラインでのチャネルにおいて、消費者の来訪数は結果として売上高の獲得に大きな影響を与えるため、重視しております。

（注2）CVR

コンバージョンレート（Conversion Rate）の略であります。CVRは、Webサイトへの来訪者のうち、注文に至った件数の割合を表す指標であります。来訪者のうち、どれだけの割合が注文に至ったかを評価することで、当社の取り扱う商品の商品力やECサイトの使いやすさ等を評価、改善することが重要であると考えており、これらの状況を測る上で適切な指標であることから重視しております。

（注3）注文単価

注文1件あたりの単価を表す指標です。商品単価を含む指標ですが、1回の注文において複数商品を購入するケース（セット買い）もあり、セット買いを促すことで事業の収益性及び効率性が高まるものと考えていることから、重視しております。

（売上原価、売上総利益）

売上原価は、売上計画に対して想定原価率を乗じて算出しております。原価率は過去実績を基に、売上高の上昇に伴い一定のボリュームを特定のサプライヤに発注することでコストメリットを享受することができる点を踏まえて算出しております。

以上の結果、売上原価1,366百万円（前年同期比22.0%増）、売上総利益2,198百万円（前期比62.9%増）を見込んでおります。

（販売費及び一般管理費、営業利益）

販売費及び一般管理費は、主に支払手数料、荷造運賃、人件費、償却費、地代家賃、その他経費により構成されております。

支払手数料、荷造運賃は、売上高に比例して発生するものであるため、売上高に対する各費用の比率の過去実績を算出し、当該比率を計画期間の売上高に乗じることで算出しております。

広告宣伝費は、各ブランドにおける計画策定時点における広告宣伝効果の実績を踏まえたマーケティング活動の想定より、費用を積み上げて作成しております。

人件費は、役員報酬、給与、賞与、法定福利費等であり、直近の実績及び人員計画に基づき、算出しております。

償却費は、のれん償却費、減価償却費であり、現存する資産の耐用年数に基づき算出しております。

地代家賃は、出店済み店舗の家賃に加え、出店計画を踏まえて算出しております。

その他経費につきましては、概ね固定費であるため、直近の実績に基づき算出しております。

以上の結果、販売費及び一般管理費は1,861百万円（前期比33.2%増）、営業利益は337百万円（前期は47百万円の営業損失）を見込んでおります。

（営業外損益、経常利益）

営業外損益については、2023年7月までの実績に加え、主に上場に関連する一時的な費用として15百万円、及び借入金に係る支払利息10百万円を見込んでおります。以上の結果、営業外収益は3百万円、営業外費用は28百万円を見込み、経常利益は312百万円（前期は54百万円の経常損失）を見込んでおります。

（特別損益、当期純損益）

特別損益は見込んでおりません。また、法人税等については、利益計画に基づいて算出しております。

以上の結果、2024年3月期の当期純利益は215百万円（前期は68百万円の当期純損失）を見込んでおります。

**【業績予想に関するご留意事項】**

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因によって異なる場合があります。

以上

## 2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年12月27日

上場会社名 株式会社yutori 上場取引所 東  
コード番号 5892 URL http://yutori.tokyo  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)片石 貴展  
問合せ先責任者 (役職名)取締役副社長 (氏名)瀬之口 和磨 (TEL)03-6379-0667  
四半期報告書提出予定日 — 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の業績 (2023年4月1日~2023年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	1,751	—	113	—	106	—	53	—
2023年3月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	35.94	—
2023年3月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 当社は2023年3月期第2四半期については財務諸表を作成していないため、2023年3月期第2四半期の数値及び2024年3月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり、期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	1,736	288	16.3
2023年3月期	1,341	230	17.2

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 283百万円 2023年3月期 230百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の業績予想 (2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,565	44.4	337	—	312	—	215	—	143.15

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 有
  - ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	1,480,700株	2023年3月期	14,807株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	一株	2023年3月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	1,480,700株	2023年3月期2Q	一株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項  
該当事項はありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計上の見積りの変更)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限や海外からの入国制限が緩和されたことにより人流が増加し、経済・社会活動の正常化が進んだことで、個人消費には緩やかな回復が見られました。一方、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、資源・エネルギー価格の高騰、国際的なインフレなど経済の先行きは不透明な状況が続いております。

当社の属する衣料品販売業界においても、資源価格の上昇や為替変動による物価上昇などにより、依然として先行き不透明な状況が続いているものの、ファッションに関連する消費意欲は緩やかな回復傾向が見受けられております。このような環境の中、当社は、今後の売上成長と利益確保に向け、オンライン事業を主とした販売強化に加え、実店舗の展開を拡大しております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,751,912千円、営業利益113,834千円、経常利益106,874千円、四半期純利益53,219千円となりました。

なお、当社はアパレル事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債及び純資産の状況

## (資産)

当第2四半期会計期間末における流動資産は1,304,004千円となり、前事業年度末に比べ412,833千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が204,489千円増加したこと及び商品が160,868千円増加したことによるものであります。固定資産は432,181千円となり、前事業年度末に比べ18,252千円減少いたしました。これは主にのれんが35,217千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は1,736,185千円となり、前事業年度末に比べ394,580千円増加いたしました。

## (負債)

当第2四半期会計期間末における流動負債は1,156,827千円となり、前事業年度末に比べ241,548千円増加いたしました。これは主に買掛金が200,041千円増加したこと、短期借入金が100,000千円増加したこと、未払金が170,526千円減少したことによるものであります。固定負債は290,987千円となり、前事業年度末に比べ95,185千円増加いたしました。これは長期借入金の増加によるものであります。

この結果、負債合計は1,447,814千円となり、前事業年度末に比べ336,733千円増加いたしました。

## (純資産)

当第2四半期会計期間末における純資産合計は288,371千円となり、前事業年度末に比べ57,846千円増加いたしました。これは主に四半期純利益53,219千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は16.3%（前事業年度末は17.2%）となりました。

## ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前会計年度末に比べ204,489千円増加し、449,177千円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は211,443千円となりました。これは主に、税引前当期純利益の計上106,874千円、仕入債務の増加額200,041千円、棚卸資産の増加額167,659千円等によるものであります。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は239,273千円となりました。これは主に、有形資産の取得による支出23,771千円、敷金の差入による支出20,242千円、合併による支出200,000千円等によるものであります。



(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は232,319千円となりました。これは主に、短期借入れによる収入180,000千円、長期借入れによる収入168,864千円等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、本日開示いたしました「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」をご参照ください。

なお、当該業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	244,688	449,177
売掛金	118,291	179,252
商品	421,309	582,177
前払費用	29,333	26,214
その他	77,547	67,182
流動資産合計	891,170	1,304,004
固定資産		
有形固定資産	46,962	65,797
無形固定資産		
のれん	316,959	281,741
その他	5,764	5,091
無形固定資産合計	322,724	286,833
投資その他の資産		
繰延税金資産	50,339	37,019
その他	30,407	42,531
投資その他の資産合計	80,747	79,551
固定資産合計	450,434	432,181
資産合計	1,341,605	1,736,185

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	145,792	345,834
短期借入金	400,000	500,000
1年内返済予定の長期借入金	63,276	100,410
未払法人税等	258	39,241
賞与引当金	10,000	10,500
未払金	270,793	100,267
その他	25,158	60,573
流動負債合計	915,278	1,156,827
固定負債		
長期借入金	195,802	290,987
固定負債合計	195,802	290,987
負債合計	1,111,080	1,447,814
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	103,684	103,684
利益剰余金	26,840	80,059
株主資本合計	230,524	283,743
新株予約権	—	4,627
純資産合計	230,524	288,371
負債純資産合計	1,341,605	1,736,185

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	1,751,912
売上原価	693,336
売上総利益	1,058,575
販売費及び一般管理費	944,741
営業利益	113,834
営業外収益	
受取利息	1
受取手数料	569
その他	1,119
営業外収益合計	1,690
営業外費用	
支払利息	5,001
支払手数料	2,760
その他	888
営業外費用合計	8,650
経常利益	106,874
税引前四半期純利益	106,874
法人税、住民税及び事業税	40,334
法人税等調整額	13,320
法人税等合計	53,655
四半期純利益	53,219

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	106,874
減価償却費	5,610
敷金償却費	2,599
のれん償却費	35,217
賞与引当金の増減額(△は減少)	500
受取利息	△ 1
受取手数料	△ 569
支払利息	5,001
売上債権の増減額(△は増加)	△ 60,960
棚卸資産の増減額(△は増加)	△ 167,659
前払費用の増減額(△は増加)	3,119
仕入債務の増減額(△は減少)	200,041
未払金の増減額(△は減少)	29,473
その他	27,049
小計	186,296
利息の受取額	1
手数料の受取額	569
利息の支払額	△ 5,001
法人税等の還付額	29,577
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>211,443</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△ 23,771
敷金の差入による支出	△ 20,242
敷金の回収による収入	4,740
合併による支出	△ 200,000
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 239,273</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
短期借入れによる収入	180,000
短期借入金の返済による支出	△ 80,000
長期借入れによる収入	168,864
長期借入金の返済による支出	△ 36,545
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>232,319</b>
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	204,489
現金及び現金同等物の期首残高	244,688
現金及び現金同等物の四半期末残高	449,177

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1 配当金支払額

該当事項はありません。

2 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

(商品在庫評価減見積りの変更)

当社は、商品在庫の評価基準について、仕入時点から一定の期間が経過した商品もしくは撤退ブランドの商品について帳簿価額を切り下げた価額をもって、貸借対照表価額としておりました。

この度、実店舗での販売体制が一定程度構築されたことから、当社の商品在庫の保有期間も変化しています。また、商品ライフサイクルを評価するためのデータが蓄積されたことで当該ライフサイクルの実態をより詳細に把握することが可能になりました。そのため、商品在庫に係る収益性の低下の事実をより適切に財政状態及び経営成績に反映させるため、当第1四半期会計期間において、商品の帳簿価額切下げに係る評価減率について変更することとしました。

この結果、従来の方法と比べて、当第2四半期累計期間の売上総利益、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益は15,379千円増加しております。